

令和2年度病害虫発生予察情報 予報第8号（9月）

令和2年9月28日
発表：福島県病害虫防除所

1 野菜・花き

作物名	病害虫名	地方	発生時期	発生量	予報の根拠	防除上注意すべき事項
夏秋トマト（被覆栽培）	灰色かび病	全域	—	平年並	発生ほ場割合は、平年並だった（±）。	①発病葉は摘除し、防除を徹底する。 ②多湿条件で発生が多くなるので換気を十分に行う。
	葉かび病	全域	—	やや多い	発生ほ場割合は、平年よりやや高かった（+）。	多湿条件で発生が多くなるので、換気を十分に行う。
	すすかび病	全域	—	例年並 ※過去5年間の 平均値と比較	発生ほ場割合は、例年並だった（±）。	多湿条件で発生が多くなるので、換気を十分に行う。
	ハモグリバエ類	全域	—	やや少ない	発生ほ場割合は、平年よりやや低かった（-）。	①ほ場をよく観察し、発生が多い場合は、速やかに防除を実施する。 ②施設開口部をネット被覆していない場合、発生に特に注意すること。
	コナジラミ類	全域	—	平年並	発生ほ場割合は、平年並だった（±）。	ほ場をよく観察し、発生が多い場合は、速やかに防除を実施する。
	オオタバコガ	全域	—	平年並	発生ほ場割合は、平年並だった（±）。	寄生や食害が見られたら早めに防除する。
野菜・花き共通	ハスモンヨトウ	全域	—	やや多い	フェロモントラップの誘殺数は平年よりも多かった（+）。	ほ場をよく観察し、寄生や被害が見られた場合は、速やかに防除を行う。 （注意報第9号参照）

注）予報の根拠の中で（+）は多発要因、（-）は少発要因、（±）は平年並要因であることを示す。

○注意が必要な病害虫

夏秋トマト（被覆栽培）	<p>■トマトかいよう病</p> <p>本病は細菌病であり、<u>土壌中の病原菌（前作の罹病植物残渣等）が第一次伝染源</u>となり発病し、その後、芽かきや収穫、誘引などの管理作業による二次伝染により被害拡大します。</p> <p><u>本病の発生が見られたほ場では、次年度に持ち越さないよう以下の対策を実施してください。</u></p> <p>栽培終了後、発生ほ場の植物残渣はできる限りほ場内に残らないよう、ほ場外に持ち出し適切に処分してください。使用したハサミや支柱等の資材を消毒し、発生リスク低減につとめてください。</p>
-------------	--